

北上市P連会報

第43号

一発行日一
令和4年
(2022年)
3月1日

発行：北上市PTA連合会

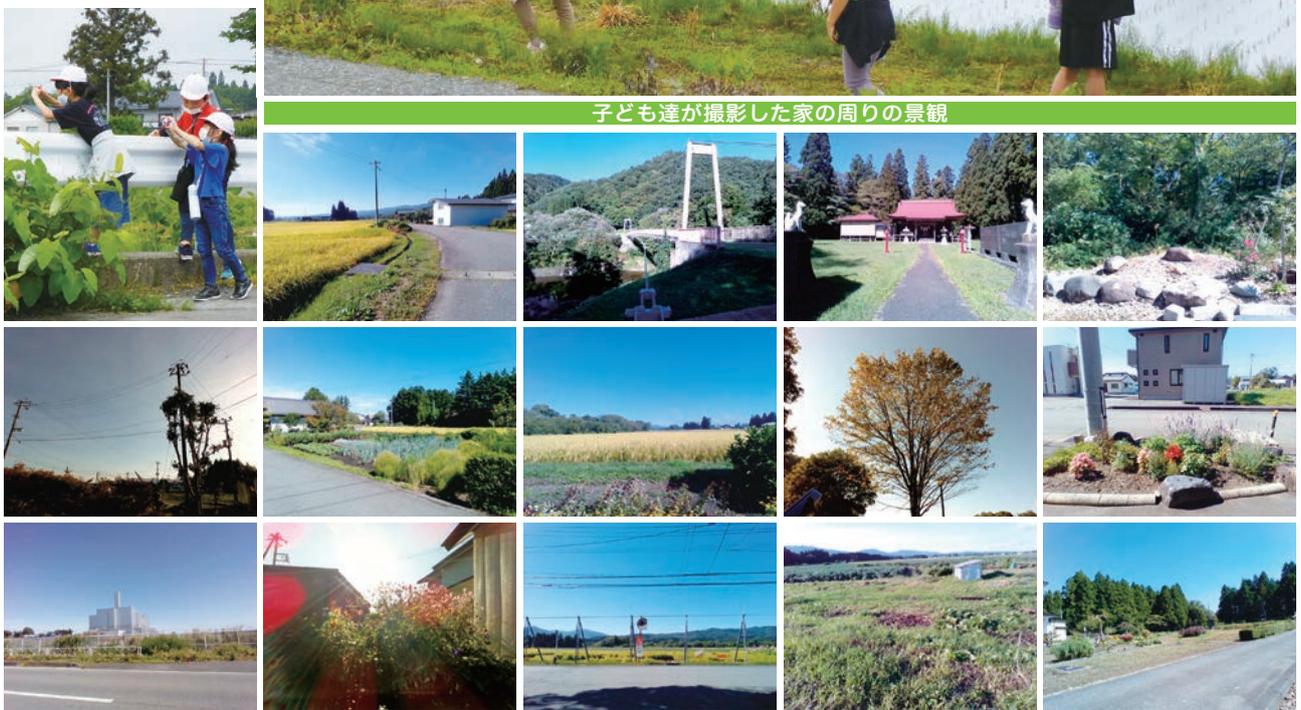
企画編集：広報委員会

印刷：北上アビリティセンター



～みんなで守り、創り、育てる 心の原風景～

子ども達が撮影した家の周りの景観



北上市では、豊かな景観を次の世代に継承していくため、景観形成推進の取組の一つとして「景観学習」が行われています。「講義」「まち歩き」「景観シート・マップの作成」などの活動を通して、身の回りにある身近な景観について興味・関心を持ち、自分たちの地域の景観に目を向け、地域への愛着や誇りを育むことに繋がっています。さらに、良好な地域づくりに関わる意識をもった『人づくり』にも役立っています。

今年度は、1人1台のタブレット端末を家庭に持ち帰り、自分の家の周りの景観を撮影する活動にも挑戦しました。新しい時代を生きていく子どもたちが、多くの体験を通して自信をもって成長していけるように見守っていきたいと思います。

目次	□特集 「GIGAスクール構想」……………P 2	□母親委員会の活動 …………… P 7
	□PTA紹介 鬼柳小学校 黒沢尻東小学校 …… P 3	□研修委員会の活動 …………… P 7
	北上中学校 江釣子中学校 …………… P 4	□研究大会参加報告 …………… P 7
	□学校紹介 北上北中学校 黒岩小学校 …… P 5	□市P連会長あいさつ・編集後記 …… P 8
	□周年行事 和賀東小学校 和賀東中学校 …… P 6	



特集

GIGAスクール構想

北上市PTA連合会 広報委員会

～1人1台端末で、教育はどう変わる？～

▶▶ GIGA スクール構想とは

ICT（情報通信技術）の社会への浸透に伴い、教育現場でも先端技術の効果的な活用が求められる時代となりました。こうした社会の変化を受け、2019年12月に文部科学省から発表されたプロジェクトが「GIGAスクール構想」です。これは、全国の小中高等学校などの教育現場で、児童・生徒が各自専用のパソコンやタブレットといったICT端末を活用できるようにする取り組みで、「GIGA」は「Global and Innovation Gateway for All」（すべての児童・生徒のための世界につながる革新的な扉）を意味しています。

同構想は当初、2019年度（令和元年度）から5年間かけて、順次ハード環境を整備していく予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、オンラインを活用した授業や学習の必要性が高まったことにより、端末導入のスケジュールが大幅に前倒しされたのです。2021年（令和3年）10月の文部科学省の実態調査報告によると、端末の整備状況は、全自治体のうち96.2%が整備済みであり、端末の利活用開始状況も、全国公立小学校等の92.6%、中学校等の96.5%で利活用を開始しています。北上市では、2021年3月にはすべての小中学校で整備が完了し、今年度から各学校で利活用が始まっています。北上市の小中学校で使用されている端末は、Chromebook（クロームブック）です。

▶▶ 学習がどう変わるのか

1人1台端末整備前は、各学校のコンピュータールームに40台程度の共有のパソコンがあり、それらを割当て時間に使って学習していました。次の時間にはほかの学級にパソコンを明け渡さなく

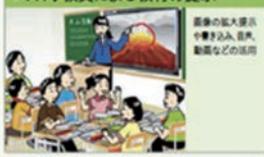
てはなりませんし、大規模校においては“予約待ち”という状況もあったようです。しかし現在は常時1人1台をずっと占有できるわけです。われわれ大人が、スマートフォンをいつも手元に置いてツールとして使っているように、子どもたちにもそうした環境が整えられたということです。

下図は、文部科学省から平成26年度に公開された学校におけるICTを活用した学習場面です。当時の状況下では「A一斉学習」で使うことがほとんどでしたが、ここに示された「B個別学習」「C協働学習」がまさに現在、そして今後の端末の活用場面といえるのではないのでしょうか。個に応じた学習や持ち帰りによる家庭学習、グループでの話し合いやプレゼンテーション、学校外の人々との交流など、学習の広がりの可能性を大いに感じます。

▶▶ 安心・安全な活用を

授業をより分かりやすく、楽しく進めるために配られた教育用端末ですが、東京都内の小学校でチャット機能がいじめに使われ、尊い命が失われたことは、記憶に新しいと思います。学校現場では、ぜひIDやパスワードの重要性を子どもたちに教えるとともに、情報モラル指導も行っていたきたいと思います。情報モラルについては、決して学校任せにするのではなく、まず私たち保護者が子どもと向き合い、ネットの世界の危険性についてしっかり教えることが必要です。

1人1台端末が、批判や中傷に使われるのではなく、子ども一人一人のよい点や可能性を生かしたり、お互いの感性や考え方に触れることで他者を尊重したりして全体が高まってゆく、そんな素敵な学びを生むものとなることを願ってやみません。

A 一斉学習	B 個別学習	C 協働学習
<p>押絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となります。</p>	<p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った速度で学習することが容易となります。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となります。</p>	<p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となります。</p>
<p>A1: 教員による教材の提示 画像の拡大表示や書き込み、音声、動画などの活用</p> 	<p>B1: 個に応じる学習 一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p> <p>B2: 調査活動 インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p> 	<p>C1: 発表や話し合い グループや学級全体での発表・話し合い</p> <p>C2: 協働での意見整理 複数の意見・考えを整理して発表</p> 
<p>B3: 思考を深める学習 シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p> 	<p>B4: 表現・制作 マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p> <p>B5: 家庭学習 情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p> 	<p>C3: 協働制作 他校との協働</p> <p>C4: 学校の壁を越えた学習 遠隔地や海外の学校等との交流授業</p> 

PTA紹介

1人1台端末の取り組み

鬼柳小学校 PTA

鬼柳小学校では、職員研修を経て6月から1人1台端末の運用が始まりました。



国語、算数、理科、社会の科目では、個別学習ドリル「ドリルパーク」を活用し、個々に合ったレベルやペースで問題に取り組むことにより、知識の確かな定着と主体的な学習意欲の醸成が図られています。

また、「オクリンク」により、それぞれが考えた内容をリアルタイムで共有することにより、新たな気付きを促し協働的な学びと深い理解につながっています。

そのほか、カメラ機能を使って植物等を観察したり、インターネットを使って知りたい情報を検索したりするなどの活用がされています。

加えて、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、始業式や全校朝会を端末を使って各教室で視聴するなど、様々な学校生活の場面で効果的な活用が進んでいます。

子どもたちは習得が早く、操作にも慣れ、楽し

みながら意欲的に学習に取り組んでいるとのこと。また、自分で調べて考えをまとめる力、それを伝えるプレゼンテーションの力が少しずつ身についてきているとの嬉しいお話も学校の先生から伺いました。



現在、鬼柳小学校では端末の家庭への持ち帰りは行っておりませんが、今後さらに活用が進めば、家庭での使い方についても考えていかなければなりません。全国的にみると、タブレット端末に悪口を書き込み、いじめにつながったケースが残念ながら発生しています。家庭での使い方については、私たち保護者がその目的を理解したうえで、子どもとよく話し合い、ルールに沿った正しい使い方を見守っていくことが必要です。

鬼小PTAとしても、そうした動きを見据え、保護者の学びの機会を作っていけたらと考えています。(鬼柳小学校PTA会長 橋場 渉)

黒沢尻東小学校におけるタブレットの使用状況と保護者の視点から見る環境の変化について

黒沢尻東小学校 PTA

昨年(令和2年度)黒沢尻東小学校は60周年の節目を過ぎ、新たな歴史へ向かい一歩目を歩み出しました。父母と先生の会では新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から60周年の記念式典は見送ることとしながらも、十分な対策を施し記念事業を開催させていただきました。その他昨年度からは学校行事や父母と先生の会の事業においても中止や規模縮小、事業の見直しなどコロナ禍以前では想像もつかない様々な対応に追われながらの会の運営となりました。

「全ては児童たちのために」黒沢尻東小学校父母と先生の会ではこの言葉を繰り返し言い続け、進む方向に迷ったときや、会の運営・事業を企画する際にはどの選択肢が1番児童たちの健全な成長に繋がるのかというところに重きを置いております。簡単なようでとても難しく、保護者同士はもちろん、学校・地域との連携を図りながら役員が毎年尽力して下さっております。

さて、今年度の市P連広報のテーマでもあります「1人1台タブレット端末の取り扱い」について、黒沢尻東小学校では写真・動画の撮影や各種ドリル、インターネットを使用している検索や応用と低学年から高学年まで様々な形で使用しております。所謂「Z世代」と呼ばれる子どもたちは自分たちの時代とは

異なり、物心ついたときにはデジタル環境に囲まれ、直感的にパソコン、スマートフォンやタブレットを使える児童も少なくありません。この子達が社会に出たときにはICT教育を活かし社会的に活躍するであろうことは想像に難くないであろうと考えます。昨今、SNSを使用している児童生徒の事故が問題視されているところではありますが、個人的にはしっかりと指導・教育することで防いでいけるのではないかと思うところです。今後更に進んで行くであろうデジタル化の波にしっかりと対応できるよう今後もICT教育はブラッシュアップされながら推進されることを望みます。

そのためにはやはり、児童生徒及び学校だけでなく、「保護者の理解と意識」が重要になると考えています。地域の未来を任せる子供たちのため、市P連でも連携しながら考えていくそんな時期なのかもしれないですね。

(黒沢尻東小学校父母と先生の会会長 高橋 隆史)



タブレット学習と北中活動紹介

北上中学校 PTA

初めに、今年度より本格的に始まったタブレット端末を使った学習等の様子についていくつか紹介します。

全校生徒を対象に情報通信機器の使用状況についてのアンケートを実施しました。紙のアンケートとは違い回収の手間が省けますし、集計やグラフ作成まで自動で行ってくれます。数学では、自分の考えをまとめたり説明したりするのに使用しています。相似の単元では実際に木と人が並んだ写真を撮り、比を用いて木の高さを求めました。



▶ アンケートの集計



▶ 考え方の発表

また、個人的な見解にはなりますが1人1台のタブレット活用の利点を活かし、欠席時にオンラインにて授業を受けることや、有事・災害の際は家庭にしながら学校からの情報配信及び共有体制を整えていくことが課題と考えられます。



▼ 比を用いて木の高さを求める

ここからは本年度の活動紹介になります。通常集まって行うPTA総会をコロナ感染リスクを下げるため書面決議という形で行うことから始まり、運動会を時短にて行いプログラムの見直しをして、伝統芸能である鬼剣舞・さんざ踊りを全校生徒で演舞する姿を保護者が観戦することができました。

また、2年生の宿泊研修、3年生の修学旅行を風潮に合わせて中止することなく、実行できる方法を模索し実行することができました。文化祭にあたる北桜祭については、合唱発表を学年ごとに観戦する保護者を入れ替え制にして、生徒たちの日頃の練習成果を保護者へと発表することができました。

活動及び行事を中止にせず、開催するにはどうかを考えさせられる年となりましたが、生徒の思い出作りをPTA一丸となり先生たちと協力し、手伝えることができた一年でした。

(北上中学校PTA会長 菊池 栄幸)

市内小中学校一人一台タブレット端末の活用について 江釣子中学校 PTA

文部科学省のGIGAスクール構想の施策を受け、北上市学校教育ICT推進計画に基づいた、タブレット端末が市内小中学校児童生徒一人一台貸与されました。新型コロナウイルス感染拡大防止による不要不急の外出制限等により、家族時間が増えている中、家庭内で子どもがタブレットを使用し宿題をしている姿をよく見かけるようになったと、保護者の皆様から話を聞くことが多くなりました。

私の娘は中学三年生です。キーボード付きタブレット端末を使用した授業が毎日行われております。また、自宅に端末を持ち帰って来ることも多くなりました。通信環境はLTEでグーグルクロームを使っています。端末を使用し、教科書のQRコードを読み取ることで英語であれば紙の教科書の補助機能として、いつでも発音チェックが出来ることや、公民であれば用語の意味を調べ、また実技であれば植物の生育状況を動画で調べるなど、それぞれに出される課題について、授業以外に自分のタイミングで学んでおります。また、グーグルクラスルームを使って、自宅で学年執行部の委員会に参加したり、更には、修学旅行のしおりを自分達で作成し、クラス全員でチェックし合うための共有の場として端末の機能を活用しております。このグーグルクラスルームは必ず先生一名がメンバーとして入ることから不適切な発言を規制した運営がなされております。また、宿題専用

アプリ(ミライシード)は選択問題が中心で主に画面タッチを利用し、レポートはタイピング中心で、パソコンと同じ使い方をしております。自宅で気になるところは、「タッチペンがあれば」とか「イヤホンがあれば」とか「自宅で使用する場合別途充電器が必要となる」ことなど、保護者として不便ではないかと感じるところもありますが、ICT推進への取り組みや授業内容の工夫から教育委員会や先生方の努力を感じる声も多く聞かれます。

これまで、市教育委員会は、ICT機器等の設置や環境整備を進め、教職員のICT活用指導力向上と同時に、今後はソフト面である「どのような学びをいかに提供できるのか」の段階を迎えていると思います。更には、教員の業務負担の軽減。機器や通信トラブル等に対応する技術支援。故障、破損時に迅速な対応が可能なサポート体制。ネットワーク基盤、情報セキュリティの環境整備。オンラインWEB会議システム利用事業等、今後取り組むべき課題も多いと思いますが、「時代を切り拓く子ども」の育成を目指し、保護者と学校が連携しながら、学習ツールの一つであるタブレット端末の安全な使用方法や発展的かつ効果的な活用方法を一緒に考え、取り組みを進めていきたいです。

(江釣子中学校PTA会長 菊池 勝)

学校紹介

今できることに精一杯向き合う姿 北上北中学校 PTA

新型コロナウイルスの拡大が岩手県にも広がった本年度、昨年度同様に学校行事の開催に大いに悩む年度となりました。そんな中、北上北中学校では、体育祭、修学旅行、文化祭等は、すべて昨年と同じように縮小開催となりました。そこで声が出てくるのは、保護者からの「最後の年だから、やらせてあげたかった。」という落胆の声です。これまでであれば、体育祭も文化祭も一日がかりであり、保護者のみならず地域のみなさんも見学しての一大行事です。修学旅行も東京へ行くところが、今年は県内沿岸地区を巡る旅となりました。子どもたちの事を思うと全く残念でなりません。

しかしながら、生徒たちの顔を見ていると、今できることに精一杯向き合う姿がそこにあります。

もちろん、内心では、もっとやりたかったという思いは大きいであろうと思いますが、青春を謳歌する子どもたちは、そんなことお構いなしに全力で走り、全力で歌います。幸いにも、昨年も本年も行事を中止することなくできた北北中ですが、できることへの感謝もさることながら、今できることに精一杯向き合う姿こそ、本来あるべき中学生の姿であることを再認識するコロナ禍の本年度となりました。

体育祭の挨拶で、「できることを感謝する暇があるのなら、目の前の競技に全力をつくしてください。」と思わず言ってしまった私は、彼らの姿に感化されたのかもしれない。

(北上北中学校PTA会長 海野 義範)



～めでた舞に歴史あり～

黒岩小学校 PTA



今年度、黒岩小学校ではコロナ禍で行事が自粛や規模を縮小などで現在のところ運動会だけが無事にできたところです。

さて新聞などでご存知だと思いますが東部地区の小学校が令和5年に統合になります。それぞれとても歴史があります。黒岩小学校で一番の歴史ある活動はといえば地元にある伝統芸能「めでた舞」があります。これは6年生、5年生が対象で6年生は衣装を着て扇子をもって踊りながら歌います。5年生は大鼓演奏しながら歌います。この踊りの伝承会が進級する前の冬休みに行われます。地元の集落会館を借りて神楽の先生に1日2時間程指導いただきながらの練習が、8日間行われます。毎年子どもたちは不安ながらも真剣に取り組む姿は、高学年として素晴らしいものです。最終

日には練習した成果の仕上げの日になり本番同様の演技を行います。毎年それぞれの色を出しながらできれば良い評価を受けております。伝承会が終わると最初は春の運動会で初めて披露して例年だと夏の芸能まつり、秋の民俗村など一般披露されます。今年度は思うように演技することは少ない年でしたが来年は一つでも多く公演して欲しいものです。めでた舞は歴史がありこれからも伝承していけるよう地元の人と協力して行きたいと思えます。

最後にはなりますがこれからも黒岩の子どもたちが豊かな環境で教育を受けてコロナに負けず強い気持ちを持って未来に向かって、夢をもって活躍して欲しいです。

(黒岩小学校PTA会長 高橋 直樹)



周年行事

創立20周年によせて

和賀東小学校は、創立20周年を迎えました。節目の年となる今年度は、式典は行いませんが、子どもたちのためになること、親子の心に残ることをPTA執行部で提案し進めました。

まずは、今年度の行事の中で「20周年」に触れるということです。運動会では、和賀東小学校の20年の歴史が出題された種目などで大いに盛り上がりました。新型コロナウイルス感染症のため、午前開催となりましたが、子どもたちの一生懸命な姿が見られ心から楽しめました。



2つ目は、航空写真と学年写真の撮影です。校舎をバックにした学年写真は笑顔いっぱいの写真となり、よい記念となりました。

そして、3つ目は、図書館ピカピカプロジェクトです。PTAにボランティアを募り、畳の部分

和賀東小学校 PTA

を板張りにし絵本コーナーにしました。夏休みには、先生方に本棚を移動してもらい、図書館の模様替えをしました。その後、図書委員会が利用しやすいように表示を作ったり、PTAの図書ボランティアの皆さんが飾りつけをしたりとみんなで取り組み、図書館がますます楽しい場所に生まれ変わりました。



さらに、20周年の記念品として、式典で使用する「広蓋」を購入しました。これは、卒業式でお披露目する予定です。

これからも、子どもたちのためにPTAが手を取り合ってますます和賀東小学校を盛り上げていきたいと思えます。

(和賀東小学校PTA会長 清水 幸一)

50周年を迎えました

和賀東中学校は令和3年度で創立50周年を迎えました。この記念すべき年を迎えるにあたり、「創立50周年記念事業実行委員会」を組織し、様々な記念事業の準備を整えてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症により、計画の見直しや事業の実施を断念せざるをえない事態となりました。実行委員会ではこれまでの50年間の歴史を振り返り、その意志を次代へと継承することこそが使命であり目的であるという気持ちから、可能な範囲で安全に留意しながら記念事業を実施することを決断しました。特にも、在校生の記憶に残る50周年となるよう、体育祭において学校の歴史をクイズ形式で振り返る「ウルトラクイズ」の実施や、記念品として配付するクリアファイルの作成にあたり、デザインコンテストを実施するなど、生徒が参加できる記念事業の計画、実施に力を注いでまいりました。



記念式典についても、感染防止を考慮し、生徒対象の式典と、北上市長並びに教育長を始めとした来賓の皆様や地域の皆様を招いた式典とを別日に実施しました。来賓を招いての式典においては、

和賀東中学校 PTA

当日、記念公演をしていただいた特設鬼剣舞部が、本年度に続き来年度の全国中学校文化祭への出場を岩手県から推薦いただいたことが発表され、図らずも51年目の新たな第一歩を歩み始める事が出来た式典となりました。



最後に、創立以来本校の50年間に携わっていただいた全ての皆様はこの場を借りて深く感謝申し上げます。

(和賀東中学校PTA会長 高橋 憲一)



令和3年度 北上市PTA連合会 母親委員会の活動

◆北上市南部学校給食センター研修会

2021年10月21日(木)、母親委員会研修会として北上市南部学校給食センターへ見学に行ってきました。こちらでは約4,000食の給食を供給してくださっています。2階には食育スペースがあり、ガラス張りの見学通路から調理室を見下ろすと、回転釜と呼ばれる大きな釜でカレーをかき混ぜている姿や大量の和え物を攪拌する様子が見られました。

感心したことは、衛生・安全管理が徹底されていることです。食材の洗浄作業は泥汚れに応じて3～4回行います。生野菜は殺菌のために茹でて使いますが、急速冷却することで食感を損なわないよう工夫されていました。また、県内初のアレルギー対応調理室では、調理・配送まで一貫して行い、ア



レルゲンの誤混入を防止しているそうです。通常の給食を食べられない子どもにもおいしく安全な給食を届けたいという気持ちが伝わってきました。

見学後は、栄養教諭の上平さんに講話をしていただきました。栄養バランスを考えた献立づくりや、北上産の食材の使用、行事や季節を感じられるおいしい給食が、子ども達の成長に大きく関わっていることを学びました。課題は、給食の残食率が10～15%もあることだそうです。研修会後に、我が子に「給食をあとひとくち食べよう！」という話をしました。もし全員があとひとくち食べられたらどう変わっていくかな？と想像してみます。給食を毎日食べられることがどんなに幸せなことか、残さず食べることが食品ロスの軽減に繋がっていることなど、私にできる食育を子ども達に伝えていきたいと思えます。

最後に、お忙しいなか研修会を引き受けてくださった給食センターの皆様、子ども達の給食に関わる方々に感謝申し上げます。貴重な体験をありがとうございました。

(母親委員長 飯豊小学校PTA副会長 杉澤 美穂)

令和3年度 北上市PTA連合会 研修委員会の活動



研修委員会での活動としては去る11月13日(土)に江釣子地区交流センターにて研修大会を行いました。

今回は、いわてNPO-NETサポート事務局長の菊池広人氏を講師に迎え「親も学ぼう！大きく変わる学校教育と入試の仕組み」と題し講演をしていただきました。

事前に申し込んだ方とオンライン映像で会場と繋ぎ講師の質問に対して会場とオンラインの回答を共有させる新しい形の講演会となりました。

そしてこれから教育現場が大きく変わっていく予感がし、親としても今までの教訓や考え方を改めなければならないと強く感じた素晴らしい講演

でした。出席者の方からは大変良かったのご意見を多数頂き、市P連の高橋会長や研修委員の皆様のご協力に対し大変感謝しております。

実は今まで何度もPTA研修大会に参加して来ましたが、何れの講演も素晴らしく参加して良かったと思うのと同時に、この様な講演を会場の制限や休日開催という事もありPTAの一部の参加者しか視聴出来ない事に対して非常に残念に感じていました。そのためオンラインで多数のPTA会員が参加出来る今回の方法は今後も可能であれば継続して欲しいと思えます。

また今回演題や横断幕を無くしたりオンラインを利用する講演会を開催する事により人の移動を減らすといった地球温暖化対策も考慮しております。学校が変わるのであればPTAも変わって行かなければならない時代なのではないでしょうか。(研修委員会委員長 南小学校PTA会長 千田 利克)

研究大会参加の報告 第69回日本PTA全国研究大会北九州大会 8月21日



初の試みであるオンライン形式での開催となった全国研究大会北九州大会に参加しました。「じりつ、創造、尊重、調和、そして成長」～ひらこう未来のとびら・やっばPTAっちゃ～の大会ス

ローガンのもと「子どもの生きる力を育む学校教育・子育てとは」をテーマにトークセッションが行われました。特にも今後到来する新たな社会Society5.0へ向けて、子どもたちが持っているオリジナリティを尊重することの大切さやヒト・モノに繋がりを作る力の必要性など、新たな社会を生きるため教育・子育てについて考えることができました。次回の全国大会は山形県での開催となります。

(北上市PTA連合会 会長 高橋 敏紀)

会長あいさつ



北上市PTA連合会

会長 高橋 敏紀
(黒沢尻西小学校PTA会長)

はじめに、北上市内小中学校のPTA会員の皆様や関係諸団体の方々におかれましては、日頃よりPTA活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年度から続く新型コロナウイルスの問題は始まりから約2年が経過しましたが、度重なる変異株の出現など未だ終息が見えない状況であり、これまで多くの学校行事・PTA活動が中止や縮小をせざるを得ない状況が続きました。

そのような状況においても、子どもたちがこれまでどおりの経験・体験ができるよう、各学校では様々な工夫をしていただきました。感染対策を行いながら子どもたちの成長に対してもご配慮いただいた先生方に、重ねて感謝申し上げます。新型コロナウイルスに対しては引き続き北上市PTA全体として、感染やワクチン接種の有無にかかわらず、差別のない暖かい関係が築けるよう会員の皆様にはご理解とご協力をお願い申し上げます。

また、近年改定された学習指導要領により、外国語教育の更なる充実やICTの活用、プログラミング教育の必修化など、子どもたちの学びの環境が大きく変わりました。「戦後最大の教育改革」とも言

われるこの改定が目指すところは、子どもたちが「人間性」「知識や技能」を身に付け、不測の事態にも対応できる「思考力や判断力」を身に付けられる教育にあるようです。つまり、計算ドリルの問題で満点を取れる人間ではなく、自分の持っている知識や人の意見を組み合わせて、新しいアイデアを創り出せる人間を目指す教育に変わりました。我々保護者も時代の変化、教育の変化を理解し、子どもたちが新しい時代を生きる力を身に付けられるよう、子どもと共に成長してまいりましょう。

最後に、令和3年度の北上市PTA連合会としての活動は既に終盤ではありますが、子どもたちのための活動と想いを次に繋げられるよう連合会役員一同一丸となって最後まで邁進してまいりますので、会員の皆様には今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

令和3年度 北上市PTA連合会役員

<会長>	高橋 敏紀 (黒沢尻西小学校P会長)
<副会長>	千田 利克 (南小学校P会長)
	杉澤 巧 (飯豊中学校P会長)
	宮原 敦子 (二子小学校P会長)
	佐藤 啓介 (笠松小学校P会長)
	照井 悠太 (江釣子小P会長)
<母親委員長>	杉澤 美穂 (飯豊小学校PTA)
<顧問>	菅野 正史 (東陵中学校P会長)
<事務局長>	高橋 一彦 (黒沢尻西小学校副校長)
<事務局補佐>	高橋 茂 (北上中学校副校長)
<事務局会計>	松本 圭 (黒沢尻東小学校副校長)

令和3年度北上市PTA連合会広報委員会

<委員長>	佐藤 啓介 (笠松小学校P会長)
<副委員長>	照井 悠太 (江釣子小学校P会長)
<委員>	高橋 隆史 (黒沢尻東小学校P会長)
	阿部 雅洋 (黒沢尻北小学校P会長)
	高橋 直樹 (黒岩小学校P会長)
	橋場 涉 (鬼柳小学校P会長)
	八重樫 桂 (いわさき小学校P会長)
	清水 幸一 (和賀東小学校P会長)
	菊池 栄幸 (北上中学校P会長)
	海野 義範 (北上北中学校P会長)
	菊池 勝 (江釣子中学校P会長)
	高橋 憲一 (和賀東中学校P会長)
<事務局>	山下 祐子 (江釣子小学校副校長)
	五十嵐智子 (笠松小学校副校長)

編集後記

今年度の広報委員長を務めさせて頂いた佐藤と申します。理事の皆様には執筆・文書校正にご協力いただき誠にありがとうございました。

今年度は、GIGA スクール構想の一環として、小中学生一人一人にタブレット端末が配布されました。先生方におかれましては、授業にタブレット端末を取り入れる方法を模索し、手探りで色々な試みをされたと思います。

今の子ども達はネイティブに電子機器を扱う環境に置かれております。タブレットやスマートフォンは様々な情報を検索でき、世界中の人達とすぐに繋がることができるとても便利な道具です。一方で、ネット上の掲示板等に誹謗・中傷を書き込む『ネット上のいじめ』も問題になっております。このような問題に対して、学校や保護者が子ども達にどのように伝えていくかも今後の課題の一つだと感じています。

今回の企画を通して、各校での様々な取り組みを参考に頂き、今後の活動に役立てていただければ幸いです。